

熊本市 感染症発生動向調査 速報



●ヘルパンギーナも警報レベル間近です

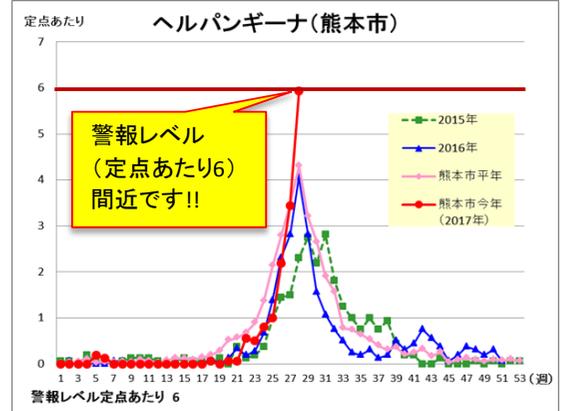
手足口病は先週からさらに増え、引き続き警報レベルとなっています。

ヘルパンギーナも、先週からさらに増え、定点あたり5.94(警報レベル定点あたり6間近)となりました。

ヘルパンギーナとは、コクサッキーウイルスやエコーウイルスなどの、エンテロウイルスの感染によって、口の中の粘膜に小さな水ぶくれ(水疱)ができる感染症です。4歳以下の感染がほとんどで、1歳が一番多い傾向にあります。

◆どんな病気？

- ・症状………突然の発熱(38～39℃)に続いて、のどが赤く腫れて痛み、口の中の粘膜に直径1～2mmほどの小さな水疱ができます。水疱が破れて浅い潰瘍になると痛みを伴います。
- ・潜伏期間…2～4日程度
- ・感染経路…感染者のくしゃみのしぶきや鼻水、水疱、便の中に含まれるウイルスが、手などを介して口や鼻の中に運ばれることによって感染します。症状がなくなったあとも、2～4週間は便の中にウイルスが排泄されます。
- ・流行期……夏～秋に流行が見られます。5月頃より増加し始め、6～7月にピークがあり、8月以降は減少します。



◆かかったらどうすればいいの？

- ・ほとんどの場合、特別な治療は必要なく自然に治りますが、まれに髄膜炎や心筋炎を合併することがあります。元気がなくぐったりしていたり、頭痛や嘔吐、高熱、脱水症状があるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。
- ・口の中を痛がって、水分や食事がとれなくなることがあります。薄味でやわらかいもの、白湯やスポーツ飲料などをこまめにとらせ、脱水にならないようにすることが大切です。

◆予防法は？

- ・手洗いが基本です。特に感染者の排便後の手洗いが重要です。感染している子どものおむつを取り替えたり、鼻水をとったりした後は、しっかり手を洗いましょう。

期 間		平成29年 27週		平成29年 28週	
		7/3～7/9		7/10～7/16(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	16	0.64	3	0.12
RSウイルス感染症	➡	0	0.00	2	0.13
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	14	0.88	14	0.88
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	33	2.06	27	1.69
感染性胃腸炎 ⚠	➡	92	5.75	75	4.69
水痘(みずぼうそう)	➡	3	0.19	7	0.44
手足口病 ⚠	➡	133	8.31	147	9.19
伝染性紅斑(りんご病)	➡	1	0.06	1	0.06
突発性発しん	➡	10	0.63	13	0.81
百日咳	➡	0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ ⚠	➡	55	3.44	95	5.94
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	1	0.06	2	0.13
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目) ⚠	➡	4	0.80	11	2.20
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	2	0.40
マイコプラズマ肺炎	➡	3	0.60	2	0.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	2	0.40	3	0.60